

入選

やさしさにふれた瞬間

鹿児島県 田上小学校

六年 亀甲 愛花

私はとても急いでいた。

なぜかという、お母さんに買いものを頼まれ、車に待たせていたからだ。その上、

「おばあちゃんが待っているから早くね。」

と念押しされた。しかし、その日のスーパーはとても混んでいて、レジには行列ができていた。みんな、たくさんの品物をかごに入れ、会計を待っている。

しかも、レジの店員さんは、胸元に「研修中」のプレートがついていた。一つひとつ、ていねいに作業されている。私の手には、マヨネーズ一本だ。とてもイライラした。

（先に会計させてほしいなあ）と心の中で思っていると、高齢の女性の番になった。おばあちゃんと同じくらいの年齢だ。おばあちゃんも同じだが、最近動作がすごく遅い。合計金額が出てから財布を探し、お金を出していた。私が、（事前に準備しておけばいいのに）と思っていると、ようやく会計がすんだ。

店員さんは、おばあさんのかごを袋につめる作業台まで運んでいた。おばあさんは、とても感謝して何度もお礼を言っていた。店員さんは笑顔で、

「いつもご利用ありがとうございます。またご来店くださいね。」

と答えていた。さらに、店員さんはレジに並んでいるお客さんに対して、「お待たせしてすみません」と謝られていた。その光景を見て「ハッ」とした。はやる気持ちが優先して、人に対する思いやりが欠けていたことに気づいた。私のように急いでいる人が、他にもいるかもしれない。

でも、誰一人店員さんやおばあさんに文句を言ったり、嫌な顔をしたりする人はいなかった。私は、自分のことばかり考えていたことがとても恥ずかしいと思った。どんなときでも、心に余裕をもち、相手を思いやる気持ちを持ちたいと思った。

ふとその瞬間、まわりを見わたすと、私のすぐ後ろで生後間もない赤ちゃんと幼稚園の子どもを連れて並んでいる親子を見つけた。かごには大量の商品と手には赤ちゃんのおむつまで持っている。私はとっさにかごを持ち上げる手伝いをした。赤ちゃんのお母さんは、

「ありがとう。助かったわ。」と言った。思わず私は、

「車まで持ちます。」

と言っていた。それから、車までいっしょに運んで別れた。別れ際に私は、

「ありがとう。」

と言われた。「ありがとう」と言いたいのは私の方だ。人を思いやる気持ちに気づかせてくれた店員さんとおばあさん、荷物を持つという行為で、私の心を軽くしてくれた赤ちゃんのお母さんに感謝したい。

車のドアを開けながら、

「遅くなってごめん。」

と言って、なぜか笑顔になっていた。人への思いやりは、私の心をほっこりさせた。